

『「出会い」
— 宣教・司牧活動の発展のために —』

協力司祭 上村 勉

はじめて家庭訪問をした時、最初の出会いが行われますが、見知らぬ人に顔を合わせて「この人、だれ!?」といった表情で疑問と好奇心の入り混じった様子を見せます。今まで見たこともない人の訪問ですから。「どこから来たか」という者です」と名乗ると、少し安心した顔になりますが、それでもまだ腑に落ちない顔をしています。そのわけは互いに相手をまだ知らないし、よく理解していないからでしょう。

人間は出会いが始まって、関わりを持ち、対話を積み重ねながら互いに理解を深めていくことができます。しかし理解を深めるのに助けとなることや障害になることがあります。助けとなることは、初めに折り、積極的に関わり、謙虚に誠実に相手の心を理解しようとし、自分の心を伝えようと努めることです。理解するために障害となることは、「自分は立派な

者であり、相手はそれほど者ではない」という意識が心の何処かに残っていることであり、そして深い対話がどう行われるかをよく分かつていないか、深い対話をまだ十分に体験できないでいることによるのです。深い対話ができるためには、自分の殻を破るという辛い体験を経て、自分のままを認め、自分のことを相手に伝え、相手のありのままの状態を受け止め理解する大変さも体験しなければならぬのです。大変なことではありますが、それでも人間が理解し合うことは本当に可能です。

福音宣教、特に司牧には、人に関心を持ち関わり、理解し、受け入れ、分かち合うことが必要です。宣教司牧活動には、苦しみも喜びも分かち合うことを繰り返し積み重ねることが絶対必要条件だと思えます。『よく折り、神さまの助けを受けつつ、教会活動の実りに力を合わせたいですね』。

「兄弟たち、あなたがたに勧めます。怠けている者達を戒めなさい。気落ちしている者達を励まし

なさい。弱い者達を助けなさい。すべての人に対して忍耐強く接しなさい。だれも悪をもつて悪に報いることのないように気をつけなさい。お互いの間でも、すべての人に対しても、いつも善を行うよう努めなさい」(二テサロ二ケ五・一四〜一五)

【深い対話の要点と話題】

自分が最近(または過去に)、経験した事や体験した時の事について、

- ①どんな感じを持ち、どんな気持ちになったか?
 - ②そんな気持ちで、どんな事を考え、何を思ったか?
 - ③そんな気持ちと考えを持って、どんな行動や態度をしたか?
 - ④これ等①と②と③の原因は何か、どんな事か?
- ※自分が愛されている実感を十分に持っているかどうか?
- ※自己価値を認められている実感が十分にあるかどうか?
- ※共同体での帰属意識を十分に感じているかどうか? など。
- ⑤今後、どうしたら良いと思えますか。

人間として成長し、成熟し、円熟するために、人はお互いに何をし、どのように貢献し合うようにしたら良いかについて対話をする。

最近あなたは、どんな事を良く考えますか。

①特にどんな思いを持っていますか。

②自分が希望していることは何か、どんな事か。

③何をやりたいと思っていますか。

④どんな事を心配していますか。

※自分は親、兄弟姉妹、親戚、友人、先生、司祭、同僚、社長、会社、社会や世界に対して何を求めますか。彼らはあなたに何を求めていると思えますか。

※あなたは神様に、キリストに、仏様に何を求め、願っていますか。神様は、キリストは、仏様は、あなたに何を求め、どうあつて欲しいと願っておられると思えますか。